

研究室紹介

富山県環境科学センター (TESC) 大気課



エコ・ラボとやまのキャラクター



● TESC の紹介

富山県環境科学センター (TESC) は、富山県立の試験研究機関です。昭和45年に富山県公害センターとして発足し、平成6年に富山県環境科学センターに改称し、総務課、大気課、水質課、生活環境課の4課制となりました。TESCでは、本県の快適で恵み豊かな環境を保全し創造するための監視・調査・研究を行う中核機関として、監視・指導、環境調査、調査研究、環境学習、国際環境協力、環境改善の6つの主要業務を推進しています。

令和2年4月には「富山県気候変動適応センター」としての活動を開始するとともに、同年10月には「環境学習室エコ・ラボとやま」を整備しました。



富山県環境科学センター

● 大気課の主な業務

大気課の職員は現在7名で、工場・事業場から排出されるばい煙や揮発性有機化合物 (VOC) の測定、解体工事等の現場周辺におけるアスベスト調査、大気汚染の常時監視、微小粒子状物質 (PM_{2.5}) 成分測定、有害大気汚染物質調査、酸性降下物調査などを行い、環境汚染の未然防止と県民の安心・安全に努めています。

また、県内の事業者や气象台、試験研究機関等とともに本県の温暖化の影響や適応に関する研究を進めるとともに、国立環境研究所や全国の地方環境研究所と連携して光化学オキシダントやPM_{2.5}に関する研究などにも取り組んでおり、現在の課題解決、行政施策への提言、更に、事業者への技術的助言も行っています。



水銀排出施設での測定



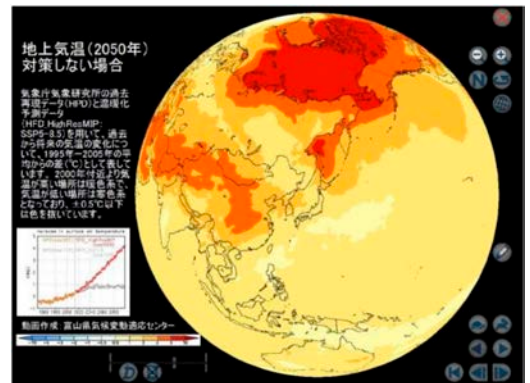
PM_{2.5} 調査

● 富山県気候変動適応センター

平成30年12月に施行された気候変動適応法に基づき、県内での気候変動の影響及び適応に関する情報収集、分析、情報提供及び技術的助言を行う拠点として、当センターは令和2年4月より「富山県気候変動適応センター」としての活動もはじめました。

適応センターの主な業務は以下のとおりです。

- 1 県内の気候変動の影響及び適応に関する情報収集及び他の研究機関等との連携
- 2 地域における気候変動影響及び適応に関する研究
- 3 県民や事業者等への気候変動影響及び適応に関する情報提供及び相談対応



適応センターで作成したダジック・アース用コンテンツ (気温変化の動画)

● 環境学習室エコ・ラボとやま

大気や水質など身近な環境から温暖化や気候変動など地球規模のものまで幅広い環境問題について、展示や実験・体験、映像を通じて「見て・ふれて・学ぶ」ことができる環境教育の拠点として、令和2年10月に、当センター内に「環境学習室エコ・ラボとやま」がオープンしました。デジタル四次元地球儀 (ダジック・アース) や実際に調査で使用している器具、職員が工夫を凝らした手作りの装置などを展示し、子どもも大人も環境について楽しく学べるようになっています。

県民の環境保全への関心と理解が深まるよう、環境月間 (6月) に施設の「一般公開」を実施するほか、「夏休み子ども科学研究室」の開催、「とやま環境フェア」への出展、「インターシップ」の受入れ、講師派遣など、幅広い世代への環境学習を推進しています。

(木戸瑞佳)



ダジック・アース



手作りのごみ分別装置



夏休み子ども科学研究室 (ブルーベリーを使って身近な水を調べよう)